

鴨川小だより

【向上心】→『よく考える 人を大切に きたえる』→ 自立する子

【子育ての四訓】

- | | | |
|----------|-----|-------|
| ◆乳児は抱きしめ | 決して | 肌を離すな |
| ◆幼児は肌を離せ | しかし | 手を離すな |
| ◆少年は手を離せ | しかし | 目を離すな |
| ◆青年は目を離せ | しかし | 心を離すな |

これは、長年にわたって学校教育と社会教育に携わってこられた方が、その経験を踏まえて示されている言葉【子育ての四訓】です。小学生は、まさしく少年時です。小学生の時期は、友だちとのつき合いによって社会性が育つ時です。徐々に手を離し、活動範囲を広げてやらなければなりません。もちろん、様々な危険があるので目を離してはいけないということです。

社会性を育むために大切にしたいこと

小学校は6つの学年があり、7歳～12歳の子どもたちが学校という社会で多くのことを学んでいきます。そして、学ぶ基礎となるのが「人間関係をどのようにつくっていくか」であり重要な課題になると考えます。なぜなら、低学年であればまだ幼く、親に守られて育つ過程の子どもたちであり、自分を守ることで精いっぱい、ついついわがままな考えや行動になります。その子が高学年になっていくときに、どのように社会性を身につけていくかは、成長において非常に重要な部分です。

そこで大切にしたい一つが子どもが相手の存在を受け止められるようになることだと思います。自分に心（気持ち）があるように、相手にも心（気持ち）があり、そのことに気づけるようになることは、全ての面での成長につながることでしょう。言葉を言い換えれば相手の心（気持ち）を受け止めることができるようになることです。

では、＜相手の心(気持ち)を受け止めることができるようになること＞にはどうすればいいか。
やはり、子どもに接している大人（親）が＜子どもの心(気持ち)を受け止めることができるようになること＞になると思います。

それは子どもが何を感じ、何を考えているのかを受け止めることです。これが**言葉が届く関係になる**と思います。その上で必要以上の手出しはせず、子どもに自分でできることが一つ一つ増えているという実感をもたせ、次なる成長の原動力としたいものです。

◆少年は手を離せ　しかし　目を離すな

■昨日のプール開きは、全員が参加できました。子どもたちには、プールに入るためには『準備（持ち物・元気アップ大作戦カードの提出・健康な体）』を自分でできるようにと話をしました。目を離さず、子どもができることを促してください。（校長 橋本喜貴）